



岩淵小 学校だより



岩淵小 HP

令和6年1月9日

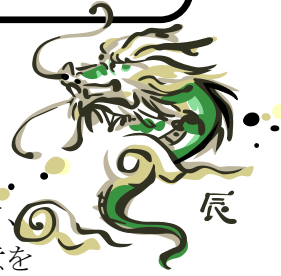
1月号

北区立岩淵小学校

校長 野尻 史子

竜がごとく 勢いよく 成長し 飛躍する年に

校長 野尻 史子



新しい年を迎えましたが、元旦夕方の能登の地震から各地で事故や火事のニュースが続き、穏やかなお正月が一転、胸がざわつくようになりました。亡くなられた方へ心より哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に一日も早く安寧の日々が戻りますようにとお祈り申し上げます。

今朝、早朝の静かな学校は、新年の清々しさに包まれていました。そして、登校してきた子供たちが増えてくるにつれ、学校が活動的に脈打つようで新しい年の始まりを実感させてくれました。

今年の干支は「辰(たつ)」です。「辰」は、「振るう」という文字に由来していて、万物が振動し草木が成長して活力が旺盛になることを表すそうです。また、「辰(龍・竜)」は、十二支の中で唯一空想上の生き物ですが、竜巻や雷などの自然現象を起こす大自然の躍動を象徴するものとして、昔から「龍(竜)が現れるとめでたいことが起こる」といって縁起のよいものとされていました。岩淵小にとっても「勢いよく成長し飛躍する年」に、子供たちや教職員とともに希望あふれるよい年にしていきたいと、気持ちを新たにしております。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、本年も本校の教育活動にご理解、ご協力いただきますよう、よろしくお祈り申し上げます。

わくわくする学びを大切に

年末、我が家のポストに1通の葉書が届きました。私が大学を卒業して教員になった最初の年にお世話になった学年主任の先生ご夫婦からの一足早い年賀状でした。毎年年賀状で近況を知らせ合っていたので、今年 齢94歳になられてもなおお元気な様子に、嬉しい気持ちで読み始めると、「産経創作漢字コンテストで金賞をいただきました」と書かれていました。その翌日、産経新聞に、確かにその作品が、最優秀賞かつ最年長の受賞者として紹介されていました。ガツンとした衝撃とともに、年齢を重ねても考える楽しみを持ち続け、「どんな創作漢字ができるか」と日々創作意欲を高めていらっしゃる様子が浮かんできました。94歳の先生に、新たな教えをいただいたように思えました。学校での「勉強」は、学生生活が終われば終了しますが、「学び」は生涯つづけられるものなのだと感じました。

岩淵小でも、基礎学力として漢字の習熟には力を入れ、全学年で取り組んでいますが、書き取りの練習が嫌で漢字嫌いになるケースも少なくはありません。最近では、パソコンやスマートフォンで文章を書くことも多く、漢字を書く機会そのものが少なくなってきましたが、漢字の成り立ちや使われ方を確かめながら覚えることで、正しい漢字の知識が身に付くこともあるでしょう。興味をもって楽しみながら「学ぶ」工夫が、漢字の習熟につながると考えられます。何歳でも、その時々興味・関心の持ち様は、個人の資質であることは違いありませんが、こと子供に対しては、周りの大人たちのアプローチ、与える環境の影響も大きいのではないかと思います。岩淵小学校では、創作漢字を考えるわくわくを年齢に関係なく味わえるような、そんな「学び方」が身に付く授業を大切にしていきたいと考えます。

ちなみに最年少受賞は7歳小学2年生の作品でした。入賞作品には、他にも視覚的に工夫した作品、ユーモアやひねりのある作品など見応えのある創作漢字が並んでいて、読み方や意味を想像するだけでもわくわくしました。どんな読み方や意味の漢字か、皆様も柔らかな思考で、一度考えてみませんか。